

元治二年一月十九日より元治二年一月廿二日まで

P8311216 right

出 殿、今日伯耆守殿、明日豊後守殿、京地御発足有し、甲州金子(助)より、一書届く
黄窪よりと児帰り来り、長児年賀として同行し砂糖一折菓子袋等持参、宿泊せし

□ 為児と共に、長児は帰れり

廿日辰 陰

宅調、薙刀稽古初に付、鍛児を遣し師方へ駒下駄上下二足相門の内老人へ同下品老足持参、且
とらゝ児門入に行く肴料持参、岡女せき年賀として女兒孫女両児を伴ひ、白酒一壘と

うど一把持参、且山本(長)よりの雁書を持越す酒肴を設く、半衿半懸け羽子板

其外二三種小品を遣す

廿一日巳 晴

紅葉山 御成有し、出 殿、堀(泉)来月京地へ出立すとて告別の書届く

P8311216 left

来り面す、金港近藤より年賀状届く、松盛斎来り稽古を初む藤児門入す束脩(*1)

を遣し酒飯を設く、牛姑来り藤女婚儀の申入あり、児等へ小品を贈らる一杯を勧む、藤山

小君年賀に来り、小品を贈らる酒肴を設く、五郎生来り金三百五円を預く預敷く、且右

婚儀の義を直に咄し聞る、長歳年賀に来る、一杯を勧む

廿二日午 晴漸陰夕より雨

坂本(謙)初て来り面す(中の上)、出 殿、飛驒守殿より仏セミラ船の□へ□せり御書翰の義

御談有し

永持より京都へ書状差立方頼越す、柳亭年賀□稽古初に来り小品持参、且茶道の

稽古を初む束脩、年玉等を投す、一泊す

廿三日未 雨午下烈風雨

宅調、昨永持より頼越書状差立方、□□組頭へ頼遣す、風雨に付柳亭を駕送す

*1:束脩(そくしゅう)、月謝の事

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。